

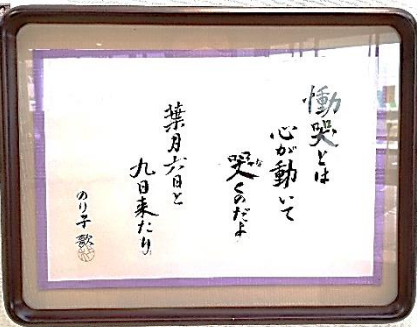
民報 ゆうばり

「平和へのメッセージ展」3度目の開催

「音楽フェスティバルdeりすた」好評開催中



「つなごう記憶と記録」
平和へのメッセージ展」
2年ぶりに開催



7月30日か催される予定
ら8月8日まで
で拠点複合施
設りすたにお
いて「つなご
う記憶と記
録ー平和への
メッセージ展」
が開催されて
います。
主催は平和
へのメッセー
ジ展実行委員
会、市内の
平和団体や労
働組合など
組織され、全
市的な運動と
して2019
年から毎年開
催される予定
で、また、展
示
と並行して、
軍隊をなくし
たドキュメン
トや沖縄の軍
隊をなくし
たドキュメン
トは2年ぶりの
第3回目とな
ります。



「りすたでピアノを楽しむ」
コーラスや波多野信子さん他

事基地をドロー
ンで撮影したド
キュメンタリー、
日本国憲法の成立
を題材にしたD
VDの無料上映会
や、Gブラザーズ
による平和のう
たごえの集い
なども開催され
ました。



7月29日
から8月7日
まで、拠点複
合施設りすた
において「音
楽フェスティ
バルdeりす
た」が開催さ
れ、コーラス
グループやタ
張市ゆかりの
ソリスト、ミ
ュージシャン
等が演奏を披
露しています。



音楽フェスティバル de りすた♪ピアノのタベ

7月31日りすたで、ピアノのタベが開催されました。

演奏は1951年、東京東村山生まれ、音大ピアノ科卒業後、地方巡業の劇団で3年、映画「幸せの黄色いハンカチ」などに出演した波多野信子さんです。

劇団の仕事で知り合った夕張南部の炭鉱員と結婚、炭鉱の主婦となり、3人の子供たちと山を駆け回って10年、1990年炭鉱閉山にもない石狩市へ移住。その後、炭鉱の生活の中から生まれた歌と共にソロ演奏活動をはじめ。プログラムは第一部のぼりふじ「廃

屋の庭に 今も咲き続けるのぼりふじの花：「♪炭鉱(やま)の街「長くのびたこの街 山と川と坂の街 私はこの街で生まれそして育った：」と当時の居住地と子供たちに寄せた思いを語りピアノで歌いはじめ、続けて3曲を披露しました。♪友を呼べ炭鉱の子供、♪炭鉱の子供の子守唄、♪三番方節 第二部は千葉智寿さん夕張沼の沢生まれのハーモニカ奏者が急遽駆けつけ参加してくれました。ピアノ曲シヨパン作品演奏後、♪ジョンカラ をピアノが壊れるのではと思われらるぐらいの迫力ある響きで会場を圧倒しました。

最後に、♪上を向いて歩こう を全員で歌い、アンコールに代えて、♪こんな時だからこそ を歌いタベを閉じました。

くずさんの 夕張歴史散歩(184)

石炭のはなし (黒い川)

以前の話ですが、夕張の子どもたちに川の絵を描かせると、ほとんどの子どもは黒いクレヨンを使ったと言われました。そうです、かつて夕張の川は黒かったのです。

それは、選炭場に運ばれた石炭は、ふるいに掛けられ塊炭・中塊・粉炭に分けます。当然に水選機は大量の水を使用します。また坑内でも粉塵の発生を抑えるため散水をし、坑内湧水も大量に出ます。夕張での水選機の使用は、明治37年丁末坑が最初とされています。

これら坑内からの揚水と選炭をくぐってきた微粉炭を含んだ大量の水は、夕張の谷あいを通るシホロカベツ川に流されました。これが黒い川の正体でした。

沈粉あげは重労働

黒い川は、それなりに利用価値は大いにありました。川の比較的流れの緩やかなところに簡単な堰を作り、流れを堰き止めます。そして流れの止まった川底に沈殿している微粉炭を、すくい集めるといっわけです。

この川からあげた沈粉は、燃やしても火持ちも良く意外と高カロリーで重宝されました。

しかしこの労働はかなりきつく、泥のように沈殿した粉炭を、川の中で立ちこんで掘り揚げるのですから、それはたいへんです。

「修学旅行の費用稼ぎにやってみたら3日ともたなかつた」と、そのつらさを聞きました。



沈粉炭上げ (安藤氏撮影)



岩渕 友「国会かけある記」
参議院議員
岩渕 友

汚染水海洋放出の強行は許さない

東京電力福島第一原発事故によって汚染水が今も増え続けるもとで、原子力規制委員会が海洋放出する設備計画を認可しました。

計画には1200件を超える意見が寄せられ、漁業者だけでなく、宮城県知事が「海洋放出以外の方法の検討を」求めるなど、反対や懸念の声があがっています。政府と東京電力は福島県漁連と「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と約束し、漁業者が反対しているにも関わらず、海洋放出の方針を強行し、認可の必要がない工事を「環境整備」と称して進めてきました。

参議院選挙後、福島県漁連から初めて電報をいただきました。大きな激励だと思っています。その思いを受け止めて、海洋放出を強行させない世論と運動を広げていきたい。

この間、選挙結果を報告しながらご意見などをうかがっています。「88歳だけれど、いてもたってもいられなくて自分で原稿をつくってメガホン宣伝に参加した」など、胸が熱くなることばかり。改めて感謝の思いでいっげいばい。

コロナの感染拡大、物価高騰、国葬や旧統一協会と自民党との関係など、どこでも話が止まりません。

こんなに問題が噴出してきているにも関わらず、臨時国会をまともな議論もしないまま終わらせようとする。これでは命もくらしも守ることはできません。素早い対策、十分な議論、真相解明など、閉会中審査の開催を含めて迫っていくとともに、こんな政治を変える力をつけるために頑張りたい。